

東鷺宮病院FAX通信



2017年（平成29年）11月号

～ 整形外科紹介 ～

副院長兼整形外科部長 廣澤 等（ひろさわ ひとし）

● 増えている運動器疾患

厚生労働省の国民生活基礎調査によると要介護の原因として、骨折、転倒および関節疾患を合わせた運動器疾患が20%強を占めており社会的に大きな問題となっています。運動器疾患・外傷が、国民の健康に大きく影響し、健康寿命を脅かしていることは皆さまが日々実感されていることと思います。



● ロコモティブ・シンドローム

日本整形外科学会が「ロコモティブ・シンドローム」を提唱して今年で10年となりました。ロコモティブ・シンドロームとは筋肉や骨、関節、軟骨、椎間板といった運動器の障害によって移動機能の低下をきたして、要介護になる危険の高い状態になることをいいますが、残念ながら一般国民への認知度は低い状態といえます。



『まだまだ多い大腿骨近位部骨折』

「ロコモ」になる疾患として骨粗鬆症がありますが、わが国で骨粗鬆症の治療を受けている患者さんは20%しかいません。一方、骨粗鬆症を原因とする大腿骨近位部骨折は欧米では減少傾向にあるのに対し、日本ではいまだに増加しています。当科では大腿骨近位部骨折の手術を年間50～60例施行しておりますが、重要なのは次の骨折を予防するために患者さんと一緒に努力することだと考えています。

『変形性膝関節症も多い』

一方「ロコモ」の原因で多いのが変形性膝関節症です。痛みのために活動性が低下し、要介護に近づく患者さんがたくさんおられます。変形性膝関節症は徐々に悪化していきますが、適切な時期に手術～人工関節置換術を施行すれば多くの患者さんで要介護の危険を防ぐことができるかと期待されます。

◎ 近隣との連携が大切

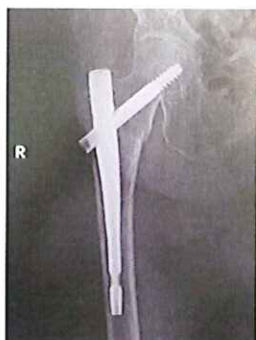
運動器疾患による要介護を防止し健康寿命延長を達成するためには整形外科だけでなく病院全体として取り組むことはもちろん、近隣の皆さまととともに地域社会全体で取り組むことが不可欠と考えます。
整形外科疾患でお困りのときはぜひご相談ください。



スクリュー固定



人工骨頭



ガンマ・ネイル

